

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、“感動とトキメキの学園”をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にする態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。
- 4 様々な機関等と連携した広がりのある教育の構築により、学校の有する施設・設備や生徒の活動成果等を府民に還元するなど、農業教育のセンター的機能を果たす。

## 2 中期的目標

## 1 基礎学力の定着と生きる力等の育成

- (1) 教育のプロ意識をもって、個に応じた「わかる授業」をめざして、日々授業内容の充実と指導方法の改善等に取り組む。
  - ア 少人数展開授業、入り込み授業、個別補習等を充実し、「わかる授業」を展開する。(授業評価で、全科目で生徒理解度常時 80%以上をめざす)
  - イ 新学習指導要領を踏まえ、各教科で教育内容の充実を図り、新しい指導内容等の導入を図る。(教育課程の改定、指導内容とシラバスの充実を図る)
  - ウ 各科目の指導内容を工夫・改善し、研究授業や研修受講等を通じて教員の指導力の向上を図る。(アクティブラーニングを基本に指導する)
  - エ 平常授業と関連付けて、基礎学力・学習力の定着の取り組みを組織的に実施(朝学習・土曜日等活用し、弱点の克服と多面的な総合的な力量を付ける)
  - オ 農業クラブ実績、各種資格取得、検定合格、コンテストの入賞等、その指導の徹底と成果を認証する。(アグリマイスター顕彰制度の活用した指導)
- (2) 精選した学校行事、特別活動、人権学習等を通して、「協働する心」や「思いやりの心」を育成する。
  - ア 年間の学年行事やLHR等を活用して、志学とキャリア教育、人権教育等の指導計画を確立する。(学校行事、特別活動等の目標と計画の明確化を図る)
- (3) 学校農業クラブ活動のプロジェクト学習等を通じて、勤労意欲と志を持ち、自ら考え行動する「生きる力」をつける。
  - ア 反復した訓練の実習により高い技能を身につけさせ、仕事の役割を体得させ、責任感、勤労観等を養う。(農場実習で技能と勤労観等の徹底育成)
  - イ 専門分野等への興味・関心を高め、資格取得、各種大会等に積極的に参加し、自信をつけ意欲を向上させる。(農業クラブ競技会等の積極的参加を推奨)
  - ウ 平成 28 年度農業クラブ全国大会の運営の徹底指導及び全国大会各種競技大会の最優秀をめざす指導(学科枠を超えた農業クラブプロジェクト研究指導)

## 2 教育相談体制の充実と自己実現の支援

- (1) 全生徒・保護者と面談を行い、生徒を取り巻く状況等を把握し、生徒に向き合う指導を徹底する。(生徒実態アンケート実施、面談や相談体制の充実)
- (2) 「将来のあり方・生き方」を考えるキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現の支援を図る。(学校紹介就職 100%、希望進学先等の実現)

## 3 機能的・機動的な運営組織の構築

- (1) 教職員が ICT を活用し、データ等の収集・分析・把握に努め、情報を共有し、効率的に運用する。(個別の校務処理システム等本格活用、会議資料 ICT 化等)
- (2) 学校を取り巻く様々な状況を把握し、課題発見に努め、迅速に対応できる校務運営組織を構築する。(報告、連絡、相談の徹底とフレキシブルな組織運営)
- (3) 全教職員が同じ目標に向かって協力し、チームワークをもって各部署での役割と責務を果たす。(教職員間の情報共有と意思疎通を図り、チームで課題対応)
- (4) 学校活動全般に PDCA を定着させ、逐次総括で課題を分析し、次の行動に反映する。(実施直後の課題分析、結果を次に生かして深化する運営をめざす)

## 4 広がりのある教育の展開と情報発信

- (1) PTA、同窓会との連携による生徒支援の取組みを推進する。(授業公開、生徒指導協力、生徒講演会、進路先開拓等協力、H29 創立 100 周年記念の準備)
- (2) 外部の機関等と連携し、生徒が校外でも活躍できる場を設定し、校内と校外とで生徒を育てる。(実社会での体験活動により、生徒に自信とやる気を育成)
- (3) 新しい分野の教育内容(環境、健康、福祉、知的財産、他産業との連携等)を農業教育に導入する。(農業の 6 次産業化等を視野に、新分野の教育も展開)
- (4) オール大阪の農業教育ネットワーク(農林行政、大学、企業、農家、農事法人、教委等)を構築する。(都市の中での農業教育をコラボで、進展させる)
- (5) 学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成(ポスター、DVD)、HP 更新、報道提供と取材受入れ等。(府民・入学希望者等へ学校情報の積極的な発信)

## 5 地域の農業高校として、社会的な貢献

- (1) 府民ニーズを踏まえ、生徒の活動を通じた地域貢献、学校資産を地域に還元。(農業教育センター校、食育推進、農業体験の受入れ、地域イベント協力等)
- (2) 平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会の事務局校として、開催の計画と準備等を推進する。(全国大会で生徒・教員が成長し、将来の発展につなげる)
- (3) 農業教育機関等とのネットワークを構築し、大阪府内の農業教育全般の役割分担を明確にし、オール大阪農業教育体制を確立する。(関係者会議の実施)
- (4) 時代に対応した新たな教育内容と基礎実習の充実に向けて、農場等の将来計画を策定し、産振施設・設備等の充実を図る。(学習農場と展示農場とを実現)
- (5) 「大阪における農業教育のあり方」提言(H25.3)を踏まえ、大阪の都市農業を担い、農から食とみどりをクリエイトする人材の育成をめざし、社会状況や地域のニーズに対応した農と食を繋ぐ新たな学びを創出するカリキュラムを編成するとともに、将来の学科の改編を検討し、関係部局と調整を図りながら、平成 30 年度以降を目途に学科改編にむけた準備を進める。(農ク全国大阪大会終了後、従前の議論を再構築して、具体的スケジュール等を検討)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>・「朝の学習」で学年が下がるほど満足度が高くなり、1 年生で 64%となった。実施形態・内容等、次年度に向け検討が必要である。国・数・英の少人数展開授業に対しては、肯定的な意見が多く特に 2 年生では 76% が効果的と回答しており、継続するとともに、全体的に授業改善の取組みを進める必要がある。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>・学校生活全般については、生徒、保護者ともに高い評価で、楽しく充実していると回答しているが、放課後等のクラブ活動の充実は、全体で 41% であった。個人差もあるが、改善の余地がある。</p> <p>・キャリア教育の充実に対して概ね肯定的な意見が多い。今年度農業クラ</p>	<p>第 1 回 (6/9 実施)</p> <p>○授業見学、学校評価と学校経営計画、各分掌の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は実習と座学が関付けられており、理想的な授業で、細やかな指導であった。</li> <li>・自転車の乗り方が危険であり、危険運転について細かく指導して欲しい。</li> <li>・農芸高校をもっとアピールして欲しい。キャラクターを作ってはどうか。</li> </ul> <p>第 2 回 (12/8 実施)</p> <p>○第 1 回授業アンケートの結果、100 周年事業・全国大会報告、進路状況、広報報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートで「生徒取組」の結果が低いが、今後学校全体で取り組む。</li> <li>・正門、「百年の丘」が完成し、動物の展示時間を HP に載せて欲しい。</li> <li>・農業クラブ全国大会では生徒の挨拶、礼儀作法など、外部から高い評価を頂いた。</li> <li>・就職 2 割で、専門学校、大学進学が増え、国公立大も 5 名合格。</li> </ul>

府立農芸高等学校

<p>ブ全国大会の準備のためクラスでのHRの時間が少なく、「進路や生き方について考える機会がある」という質問は46%であった。時限的なものであることから次年度は、計画的かつ丁寧な指導を実施したい。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の回答では施設・設備等の老朽化に67%が満足できないと回答しており、計画的な改修等が必要である。</li> <li>・本年度は農業クラブ全国大会運営のために業務量が増加し、業務分担に無理が生じたため、意欲的に取組める環境、教職員間の連携や情報交換に関する項目において否定的な意見が多かった。次年度は校務分掌・委員会活動などの見直しや校内研修の充実を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で若い教員が増え、農業高校のことを知らない。先生を学校に招いてはどうか。</li> </ul> <p>第3回（3/22実施）</p> <p>○学校経営計画及び学校評価、授業評価、学校教育自己診断結果等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断結果で、農業クラブの活動について肯定的な意見が多い。</li> <li>・授業アンケートの数値は、全体的に数値は低くはない。</li> <li>・進路先も充実している。現在の良さを残しつつ新しい取り組みを進めていって欲しい。地域の方と連携し、農芸高校をアピールして行って欲しい。</li> <li>・広報に積極的に行ったことが功を奏し、志願者が2割増加した。広報の効果はあったと思われる。PTA対象の学校説明会も良かったので、次年度も是非実施して欲しい。</li> <li>・農芸祭の時に、進路相談ブースを設置すれば、PTAも協力は可能である。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基礎学力の定着と生きる力等の育成</p>	<p>(1) 個に応じた基礎学力の定着 ア わかる授業の実施 イ 授業評価の活用 ウ 授業力の向上 エ 基礎学力の定着 オ 資格取得等</p> <p>(2) 「豊かな心」と「生きる力」の育成 ア 「生きる力」の育成 イ 「協働する心」と「思いやりの心」を育成</p>	<p>(1) ア・国、数、英で少人数展開授業や入り込み授業、全教科・科目で、個別補習を実施 イ・授業力向上のために、パッケージ研修で得た本校のめざす授業評価票で授業観察と指導実施 ・学校として、授業研究交流とグループ学習等とともに学ぶ授業の推進により、授業改善する。 ウ・学習力の向上をめざす朝学習、朝読の実施と成果を議論し改善 ・土曜日授業・活用を併用して、基礎力診断テスト(2回)、実習、補習、考査、キャリア講習会等を実施。 ・全学年で授業日を十分確保、指導内容を充実 エ・アグリマイスター顕彰制度金賞をめざす指導体制の確立と資格検定指導の継続推奨 ・図書館等の整備と学習環境の充実</p> <p>(2) ア・農業クラブ活動等を通じて「自ら考え行動する力」を育成。全国大会をめざし競技会等にも積極的に参加し、校外活動で、自信を持たせ、学習意欲を向上させる。 イ・学校行事、特別活動、人権学習、実習を通じて「協働する心」と「思いやりの心」を育成 ・農業クラブ全国大阪大会の生徒指導計画を踏まえ、LHR、特別活動の指導内容を各学年で精査し、目的を明確にし、年間計画を再度見直す。土曜日活用・授業でも不足する学級活動の時間を確保し、HR活動の活性化に努める。</p>	<p>(1) ア・展開実績、授業評価等 イ・授業アンケート結果 項目「生徒取組1(予習・復習ができて)」の平均値(H27第2回 3.20→3.30以上に) ウ・基礎学力診断テストの結果を分析し、個々の生徒の学習指導・進路指導への活用 ・朝学の共通した指導マニュアルを作成 ・学校教育自己診断結果 生徒項目「教え方に工夫がある」割合(H27 50%→60%以上に) ・学校教育自己診断結果 項目「朝学への前向き」割合(H27 77%→80%以上に) ・生徒遅刻総数(H27 3138→30%以上減に) エ・指導体制確立と顕彰受賞者(5名以上)の成果等 ・図書館の整備状況等</p> <p>(2) ア・近畿ブロック代表として農業クラブ全国大会出場 ・全国大会スタッフ生徒の参加満足度(90%以上) ・学校教育自己診断結果 項目「農業クラブへの意欲」割合(H27 69%→75%以上に) イ・学校教育自己診断結果 項目「人権学習機会」(H27 65%→70%以上)</p>	<p>(1) ア・国語では全学年(計4単位)、数学では1年(1単位)、英語では2・3年(計2単位)の少人数展開授業を実施できた。(○)少人数展開時間数の増加と習熟度別授業が必要。 イ・授業アンケートの生徒取組1は、2.93となり、大きく減少した。このことは設問の文言を修正したことも影響している。(△) ウ・基礎学力診断テストの成績と決定進路との関連を検証し、学習指導・進路指導の指針となった。(○) ・実施3年目となった朝学の指導方法を確立させたが、実施上の課題も明確になった。(○) ・学校教育自己診断で「教え方に工夫がある」64%、「朝学への前向き」83%となり、遅刻総数については、概ね30%減少した。(○) エ・アグリマイスターではプラチナ賞1名、金賞6名、銀賞6名が認定。平成29年度入学生からは、資格取得について単位認定することを決定した。閲覧の工夫とともに創立100周年記念事業の一環として図書館を整備した。(◎)</p> <p>(2) ア・近畿大会での最優秀賞受賞には至らなかったが、6部門中5部門で大阪代表として出場し、3部門で優秀賞を受賞した。(○) ・全国大会スタッフ生徒の参加満足度は、部門により異なるが概ね90%となった。(○) イ・学校教育自己診断で「農業クラブへの意欲」71%となり昨年度より若干増加した。(○) イ・学校教育自己診断で「人権学習機会」78%となり13%増加した。(◎)</p>

## 府立農芸高等学校

2 教育相談体制の充実と自己実現の支援	<p>(1) 生徒理解促進のための相談体制の充実と生徒と向き合う指導実践</p> <p>(2) 自己実現を支援する進路指導体制の確立と個々の進路自己実現の支援</p>	<p>(1) ・いじめ等調査(年2回)、生徒実態調査(学校独自1回)実施、結果を課題分析し、職員で分析結果を共有し、生徒指導全般に活用する。とりわけ、SNS上のトラブルが多くなってきているので、人権講演、学年集会等でも、さらに重点的に指導を継続する。</p> <p>・保健部・生活指導部の相談体制の連携、相談室、学年、専門科でも相談体制を強化。</p> <p>(2) ・学科改編も視野に教育課程を継続して検討。</p> <p>・1年次から進路希望状況を把握し、学年、専門各科と進路指導部の連携を強化。3年間の進路指導年間計画を核に、特別活動、教科等でも「将来の在り方・生き方」を考えるキャリア指導を実施。</p> <p>・進路実現にむけた個別補習指導(教科指導、小論文、面接)等の実施</p> <p>・農業科関係の資格・検定の取得指導以外に、数研、英検、作文コンテスト等、普通教科においても、様々な資格・検定等の指導を推進する。</p> <p>・農業クラブと生徒会クラブの活動を通じて生徒の成就観・達成感を育成する。</p>	<p>(1) ・生徒実態調査等の実施結果分析、その対応実績</p> <p>・支援教育コーディネーターの役割を明確化し、支援教育や生徒相談に係る組織体制を整備</p> <p>(2) ・教育課程の継続審議状況</p> <p>・担任の懇談状況(年2回以上)と学年、専門科と進路指導部の連携、キャリアガイダンス実施状況、個別指導実績</p> <p>・新規進路先等開拓実績</p> <p>・卒業時の進路実績等(就職内定率H27100%、国公立農学部等の進学者数H276名実績維持等)</p> <p>・各種大会出場実績、資格、コンテスト参加成果等</p>	<p>(1) ・様々な場面を利用し、いじめ等への抑止対策は十分できているが、生徒実態調査結果を活用した組織的な対応が必要である。(○)</p> <p>・平成29年度から支援教育コーディネーターを中心とした支援教育委員会を設置、従来の健康連絡会と健康連絡委員会については生徒支援連絡会、生徒支援委員会として支援体制を充実させることを決定した。(◎)</p> <p>(2) ・平成29年度入学生からは、1年次に、7限目の進学希望者用選択科目(1単位)、2・3年次に、大学進学希望者用の選択科目(4単位)を設定するなど、進学対応を強化させることとした。基礎学力の定着のための習熟度別少人数授業の導入を進めたい。(◎)</p> <p>・就職内定率は100%を維持。国公立大学への合格者数は5名。(○)</p> <p>・毎日農業記録賞(高校生部門優良賞、高校生部門地区入賞)大阪府学生科学賞(大阪府教育委員会賞)第8回「私の志」スピーチ部門(最優秀賞・優秀賞)第20回ボランティアスピリット賞(関西ブロック賞)大阪農業高校企業コラボプレゼンテーションコンテスト(最優秀賞・優秀賞)等(◎)</p>
3 機能的・機動的な運営組織の構築	<p>(1) 機能的、機動的な学校運営組織の構築</p> <p>ア 校務組織等の再構築</p> <p>イ PDCAサイクルの定着と教職員の対応力の強化</p> <p>ウ 統合ICT活用</p>	<p>ア・学校教育自己診断結果や学校協議会等の提言を学校運営計画に反映する。</p> <p>・校内の内規(H26改定)の随時見直しの実施。</p> <p>・再任用職員の増加、農業クラブ大阪大会事務局校、創立100周年等を踏まえ、学校全体で業務量を均一に分担できる組織体制を組む。</p> <p>イ・各行事等が終わる毎にアンケート集約し、改善案を作成する。H27総括を次年度へ反映させ、学校運営全般にわたりPDCAサイクルのさらなる定着を図る。</p> <p>・課題対応行動チェックマニュアルの作成検討</p> <p>ウ・統合ICTによる校務処理システムの課題整理と有効活用、校内情報の伝達、共有化の推進。</p>	<p>ア・内規の改定</p> <p>・首席の業務内容の再構築と業務遂行状況に応じた組織改善</p> <p>・農業クラブ全国大会と創立100周年記念事業とを円滑に行えるよう、校内組織体制を整備</p> <p>イ・各分掌・部署ごとでの取組計画(RPDCA)の作成と改善等</p> <p>ウ・校内検討組織の確立、校内LANの増設</p>	<p>ア・校内組織を見直し、内規の検討を進めた。(○)</p> <p>・平成29年度から渉外や広報を担うための総務部を設置し、これまで首席が担ってきた業務を分掌化する。(◎)</p> <p>・農業クラブ全国大会と100周年との明確な業務分担ができた。再任用の教員等の力を引き出すような組織作りが必要。(○)</p> <p>イ・各分掌・部署ごとで取組計画(RPDCA)の作成することにより、課題の明確化と改善につながった。(◎)</p> <p>ウ・校務処理システムの運用が着実に進展したが、校内の情報システムの構築は、引き続き課題である。(△)</p>
4 広がりのある教育の展開と情報発信	<p>(1) ア PTAや同窓会組織との連携</p> <p>イ 外部機関等と連携し、広がりのある教育の展開</p> <p>(2) ア 学校情報の外部への発信</p>	<p>(1) ア・PTA、同窓会の協力で生徒の活動を支援する取組みを推進する。PTA携帯ネット情報発信推進、H29創立100周年記念事業実行委員会組織と連携した学校教育環境整備。</p> <p>イ・農業クラブ活動等を通じて、地域や外部の機関等と連携し、生徒が校外で活躍できる実習を数多く設定し、実体験活動により生徒に自信をつけさせ、学習意欲の向上をめざす。</p> <p>(2) ア・校内見学会、体験入学会の効率的な実施、ホームページの更新、生徒活動の報道提供、中学校への訪問、農芸グッズやDVDの新規作成、活動資料等の配布、外部説明会の参加など、逐次、学校情報をより積極的に外部へ発信する。</p>	<p>(1) ア・正門付近の放牧エリア、図書館、農場宿泊棟等の整備</p> <p>イ・生徒の校外活動等の推進状況とその成果等</p> <p>・学校教育自己診断結果項目「地域交流機会」割合(H27 65%→70%以上に)</p> <p>(2) ア・体験入学会の回数(H27 1回→2回に)</p> <p>・参加中学生の数(H27 263名→30%以上増加)</p> <p>・HPの刷新、学校案内改定</p>	<p>(1) ア・計画通り整備を進めることができ、教育環境の向上につながった。(◎)</p> <p>イ・野菜等の販売実習、高校生カフェ、酪農教育ファーム活動など、学科の特色を活かした連携活動を積極的に展開できた。</p> <p>・学校教育自己診断で「地域交流機会」68%となり若干増加した。(○)</p> <p>(2) ア・体験入学会を2回実施し中学生が計430名(保護者134名)参加。学校説明会を4回実施し中学生が計307名(保護者174名)参加。(◎)</p> <p>イ・学校HPを完全に刷新し、特色ある取組みを積極的に発信。学校案内については、平成30年度入学生から新たな制服を導入することから、平成29年度当初に新たに制作することとした。(◎)</p>

## 府立農芸高等学校

<p>5 地域の農業高校として社会的な貢献</p>	<p>(1) 府民ニーズを踏まえ、大阪府の農業高校としての役割を果たす。 ア 地域連携と学校資産活用 イ 農業の担い手等の育成 ウ 農場等の将来計画と学科改編案を策定</p>	<p>ア・学校資産を活用し、農業教育のセンター校として、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、地域ブランド開発、緑化協力、イベント参加協力等を実施し、生徒を育成。(通年) イ・府環境農林水産部、農業大学校と連携して、担い手育成、新たな就農先の開拓を推進。 ウ・「今後の大阪における農業教育のあり方」提言による時代に対応した教育内容の構築、将来の学科の改編にむけ、校内検討委員会で検討を重ね、教育内容の改編等、できることから実行していく。 ・施設充実（繁殖豚舎改築等）を図る。</p>	<p>ア・知的財産教育に係る国の研究指定事業を充実させ、全学科での取組を持続可能とする組織体制を整備する。 ・種々の取組みの推進状況とその成果等 イ・大阪府都市農業参入促進連絡会等の参加や農業自営や農業関連産業への自己実現支援実績、農業大学校等への進学実績等 ウ・教育施設の充実の取組みと農場等の将来計画と改善、及び学科改編に向けて教育課程や指導体制の見直しの進捗状況等 ・施設改修予算の効果的な運用と教育内容の進展状況</p>	<p>ア・食品会社と連携し農芸ポークカレーを商品化。製麺会社と連携しビジネスプレゼンテーションコンテストを実施、本校生が最優秀賞、優秀賞を受賞。(◎) イ・将来の就農を視野に入れ、大阪府農業大学校に4名、他府県大学校に3名が合格。(◎) ウ・今後、農業教育を充実させるためには、SPHの研究指定を活用し学校・地域・企業のリソースを活用した循環システム構築をめざすこととした。(○) ・昨年の繁殖用に続き、今年度は飼養用の豚舎の改修工事を実施できた。(◎) ・鶏舎については、飼育から食肉加工実習までトータルで行なえる形で改修計画を作成し、府教育庁に申請した。(◎) ・今後の教育の在り方についての踏み込んだ検討が必要である。(△)</p>
-------------------------------	---	--	--	---